

福島県立安積中学校・高等学校(仮称)
教育内容に関する基本計画

令和 5 年 5 月

福島県教育庁

高校教育課・県立高校改革室・義務教育課

目次

1	教育内容に関する基本計画策定の経緯.....	1
2	中高一貫教育について.....	1
	(1) 「安積の精神」.....	1
	(2) 教育目標.....	1
	(3) 教育方針.....	1
	(4) 中高一貫教育の柱.....	2
	(5) 併設中学校で育てたい生徒像、資質・能力.....	3
	(6) 併設中学校の教育内容.....	3
	(7) 併設中学校の教育内容の方向性.....	5
	(8) 中高の接続.....	9
	(9) 他の中学校等との連携.....	10
	(10) 生徒募集.....	10
3	開校に向けた準備計画.....	10
	(1) 校舎施設整備について.....	10
	(2) 教育内容等の検討について.....	11
<参考>	整備基本計画の概要.....	12
	(1) 併設中学校の概要.....	12
	(2) 新設する校舎の概要.....	12

1 教育内容に関する基本計画策定の経緯

令和3年5月に策定した「福島県立安積中学校・高等学校（仮称）整備に関する基本計画」（以下「整備基本計画」という。）において、併設する中学校の具体的な教育内容については、県教育委員会及び安積高等学校の教職員による教育内容検討委員会等において検討するとされている。

県教育委員会では、令和4年4月に県立高校改革室内に組織した、中高一貫教育校開校準備ワーキンググループにおいて、開校準備を進めるとともに、安積高校内教育内容検討委員会において、教育内容等について検討してきた。本計画は、これまで検討してきた併設型中高一貫教育の教育内容について整理したものである。

2 中高一貫教育について

新しい中高一貫教育校（以下「安積中高一貫教育校」という）の設置に当たっては、生徒の高い志を実現する学校、進学指導拠点校*として、県全体の学力向上を牽引する学校、地域医療を担う人材や、震災からの復興を牽引する人材を育成する学校となることが期待されている。ここで示した人材とは、「次世代の福島・日本・世界を牽引するトップリーダー」であり、そうした人材を育てるため、安積中高一貫教育校の教育目標等を次のように整理した。

（1）「安積の精神」

安積高等学校の伝統に根ざした校訓とも言うべき「安積の精神」を引き継ぐこととした。

開拓者精神	質実剛健	文武両道
-------	------	------

（2）教育目標

全人教育を目指し、知・徳・体を錬磨し、次代を担い、人類に貢献できる、志高く有為な人材を育成する。
--

教育目標については、中高一貫教育の6年間の学びに一貫性を持たせ、確かな人材の育成につなげるために、安積高等学校の伝統を尊重し、これまでの安積高等学校の教育目標と同一のものとした。

（3）教育方針

教育目標を達成するために、次のような教育方針のもとに、教育活動を

* 進学指導拠点校とは、本県の学習指導や進学指導のリーダー校として、難関大学や医学部志望者の進路実現を図るための取組を行い、各分野において国内外で活躍し、未来を牽引できる人づくりを担う学校である。

行う。

「教育基本法・学校教育法に基づき、生徒の個性を伸長し①、高い知性と豊かな情操と強い実践力を養い②、秩序と勤労と責任を重んずる自主自律の精神を培い③、かつ進取の気象④と協同の精神に富み、平和的文化的な国家及び社会の形成者として真理と正義を愛する、質実にして真摯な人物の養成⑤に努める。」

この教育方針のうち下線部の5つを、教育方針の5項目として整理した。

- ①個性を伸長する。
- ②知性と情操と実践力を育てる。
- ③自主自律の精神を培う。
- ④未知の領域に果敢に挑戦する高い志を育てる。
- ⑤真理と正義を愛する、質実にして真摯な人物を育成する。

解決すべき課題を抱える福島県を牽引するためには、次世代の姿を想像することが必要である。想像力を働かせて描いた姿を形にする力や新しいものを創り出す力を備えたリーダーを育成したいという思いから、次のスローガンを設けることとした。

「未来を描き、未来を創る開拓者」

(4) 中高一貫教育の柱

安積中高一貫教育校は、生徒の高い志を実現し、県全体の学力向上を牽引する学校として、地域医療を担う人材や、震災からの復興を牽引する人材の育成が期待されている。さらには、令和3年12月に策定された第7次福島県総合教育計画*では「急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性をいかし、対話と協働を通し、社会や地域を創造することができる人」を育成していくこととしている。

こうした人材を育成するため、6年間を通じた中高一貫教育の柱として、「世界志向の学び」、「探究的な学び」及び「協働的な学び」の3つを掲げる。

「世界志向の学び」では、地域や世界を牽引するトップリーダーに必要な知識や技能を身につけ、グローバルな見方や考え方で多様性を力に変えて課題に主体的に向きあう人間性等を培う学びを実践する。

* 第7次福島県総合教育計画とは、教育行政の効率的かつ効果的な推進に資するために、策定している総合教育計画である。第7次計画は、令和4年度から令和12年度までの9か年の計画である。

「探究的な学び」では、自ら課題を見つけ、その解決に取り組む課題研究、探究活動において、物事を俯瞰し、異なる分野の知識を結びつける学びを実践する。

「協働的な学び」では、第7次福島県総合教育計画により示された「学びの変革*」により、「多様な個性」を生かした「対話と協働」を通して、他者と意見や考えを交わし思考を深め、他者を認める寛容さを育む学びを実践する。

これらの学びを実践する手段として、教科の枠を超えた教材開発を進めるとともに、STEAM教育*を効果的に活用し、高度な学びを追究していくこととする。

(5) 併設中学校で育てたい生徒像、資質・能力

「未来を描き、未来を創る開拓者」として、将来「次世代の福島・日本・世界を牽引するトップリーダー」となる人材は、「安積の精神」の一つである開拓者精神に富み、自己や社会の未来を切り開こうとする志を持っている人材である。

中高一貫教育の前半3年間において、教科の学び、学校行事等を通じた体験により、学びの基礎を身につける。その過程で、社会の様々な課題を知り、その課題解決や自己の目標達成に向けて多くの学びを得ようと探究する粘り強さを持った生徒を育てたい。また、各教科や特別活動において、他者を思いやり、相手の立場になって異なる意見も受け止め、協働する心の豊かさや、困難や逆境にあったとしても、失敗から学ぶしなやかさを育みたい。

(6) 併設中学校の教育内容

ア 世界志向の学び

(ア) 多様なコミュニケーション活動

地域や世界で活躍する方々とのコミュニケーション活動により、本物を知り、視野を拡げ、使命感、多様な価値観を受容する寛容性を育む。

* 学びの変革とは、全ての子どもに必要な資質・能力を育成するため、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革することである

* STEAM教育とは、科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、哲学、芸術、歴史などの教養 (Art・リベラルアーツ)、数学 (Mathematics) の諸領域・各教科等を横断しながら、実社会での課題発見・解決に必要となる本質を見抜き考える力や新たな価値を生み出す創造力等を育む教育である。

(イ) 次代を見据えたキャリア教育*

世界で活躍する次世代リーダーの育成を意識したキャリア教育を教育活動全体で取り組む。

(ウ) 英語による発信力・表現力の向上

次世代の福島・日本・世界を牽引するトップリーダーには、外国語によるコミュニケーション力、表現力が必須である。表現活動を取り入れた学習や国内外の様々な地域や機関・施設等における研修を通して、発信力、表現力を高める。

イ 探究的な学び

(ア) 体験の重視

各教科の深い理解には、本物・本質に触れ、実感を伴った理解が必要である。物事の本質に触れることで、疑問を持ち、身の回りを多角的に把握する体験を通じた概念獲得を目指す。

(イ) プロジェクト学習

現実社会に関わる真正で複雑な疑問や問題に対して、一定の時間をかけて取り組み探究をしていく学びを取り入れる中で、知識やスキルを習得し、課題を発見解決していく学習方法であるプロジェクト学習を取り入れる。

実社会に即した学際的な課題の解決を通して、知識、概念を習得することと、課題解決に向け創造的・論理的に思考することを循環させる学びを目指す。

(ウ) 統合する学び

多くの教科や分野、他学年の学習内容との関連を意識することで、学びを統合する能力を育む。探究的なプロセスを循環させるスパイラル学習、ICT 機器による個別最適化された学びにより、生徒の深い学びを促す。

ウ 協働的な学び

(ア) 多様な形態での学び

習熟度別学習などの少人数教育や探究活動におけるグループ協働学習など、少人数教室、交流ラウンジや多目的スペースを活かした多様な形態での学びを実践する。

* キャリア教育とは、社会の一員として役割を果たすとともに、生徒それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、社会的・職業的に自立して生きていくために必要な基盤となる能力や態度を育てる教育である。

(イ) 地域や社会とつながる学び

プロジェクト学習や本物を知る体験を通して、県内各地域の人々、様々な外部施設とつながる。

(ウ) 中高で連携した学び

中高一貫教育校の利点の1つは、幅広い年齢の生徒が身近に学んでいることである。中学生と高校生が共に学び、豊かな教養を育むための環境を創る。

(7) 併設中学校の教育内容の方向性

「安積の精神」を体現する「未来を描き、未来を創る開拓者」に必要な資質・能力を育むために、各教科や総合的な学習の時間、特別活動、特別の教科 道徳等における実践について、具体的な内容を検討する上での方向性を次のように整理した。

[3つの学びをつなぐ STEAM 教育]

中高一貫教育で育む汎用的な資質・能力を、教職員や生徒によりルーブリック*として設定し、その育成のために、各教科や特別活動等、学校の教育活動全体を通して、STEAM 教育を取り入れた教育課程とする。県内外の組織や学校などと協力・連携し教材開発を進めることで、安積中高一貫教育校における教育の手法を県内に広く普及させ、進学指導拠点校として、県全体の学力向上を牽引する役割を果たすようにする。

<連携先の一例>

福島大学「福島型 STEAM 教育の開拓*」プロジェクト
一般社団法人学びのイノベーション・プラットフォーム* など

ア 世界志向の学び

○ 本物・本質に触れる体験活動

多様な機関や団体等との連携による、社会とつながる学びを意識した本物・本質に触れる体験活動を実施する。

<体験活動の一例>

* ルーブリックとは、成功の度合いを示す数レベル程度の尺度とそれぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表である。
* 福島型 STEAM 教育の開拓とは、福島大学が進める STEAM 教育の充実を目指し、教育体制の構築や、実践の蓄積を進めるプロジェクトである。
* 一般社団法人学びのイノベーション・プラットフォームとは、STEAM 教育を柱に、主に初等中等教育のイノベーションを加速する使命を帯びた産学官公教が連携する組織である。

- ・福島イノベーション・コースト構想*関連施設との連携
- ・福島国際研究教育機構*との連携
- ・美術館・博物館との連携ワークショップ など

○ キャリア教育の充実

EdTech*を利用したキャリア教育を導入し、自分の未来に向き合い、成功体験を積み重ねる経験を通して、次代を担う生徒の未来を創るキャリア形成を支援する。本物を知る体験を通して、学びと社会の接点を感じさせる。

<取組の一例>

- ・安積高等学校同窓生による「ようこそ先輩」ワークショップ（仮称）の開催
- ・「安積の精神」を学ぶ、安積歴史博物館研修
- ・未来を創る各種企業との研修
- ・福島の課題を学ぶフィールドワーク など

○ 理数教育の充実

理数分野の興味・関心を高めることや、研究や技術の基礎となる、科学的な手法等の技能の習得や観察力、考察力、表現力の向上のため、先端的な研究・学術分野に触れる機会を設け、科学技術系リーダーを育成する。

※安積高等学校が指定を受けているスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業*では、「新しい社会を拓く創造性とレジリエンス*を身につけた科学技術系リーダーの育成」を目標としている。

<取組の一例>

- ・科学的な思考力や数学的な見方・考え方を働かせる学びを取り入れた授業

* 福島イノベーション・コースト構想とは、東日本大震災・原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトである。

* 福島国際研究教育機構とは、福島をはじめ東北の復興を実現するとともに、日本の科学技術力・産業競争力の強化に貢献する、世界に冠たる「創造的復興」の中核拠点として、国が設立する法人である。略称 F-REI（エフレイ）。

* EdTech とは、テクノロジーを用いて教育を支援するシステムである。

* スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業とは、文部科学省が、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を「SSH」として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援するものである。

* レジリエンスとは、ストレス場面から心理的に回復する能力のこと。心理学や教育学において用いられている。

- ・課題解決力の向上、協働性の向上を目指したワークショップ型実験授業（サイエンスラボ）の開催
- ・科学の甲子園ジュニア等の各種研究発表コンテストへの参加
- ・安積高等学校で実施する医学コース*入門講座の開設
- ・福島ロボットテストフィールド、福島医療機器開発支援センター等の関係機関での研修 など

<施設面での工夫>

- ・実験用具や教材等を展示できる壁面収納を設えた、生徒に学びのきっかけを与える準備室の設置

○ 発信力・表現力を育む語学体験

本物体験を伴う、コミュニケーション力を重視した学びを展開する。世界中の人と議論するための表現力をトレーニングするため、オールイングリッシュによる英語の授業*を実施するとともに、各種研修も取り入れる。

<取組の一例>

- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートを取り入れた授業
- ・系統的な国内外の語学研修
- ・探究活動等における英語による概要の作成、発表 など

イ 探究的な学び

○ 総合的な学習の時間の充実

教科横断的な学びを実現する最適な機会は、自ら課題を見つけてその解決に取り組む課題研究、探究活動である。総合的な学習の時間の授業時数を標準より増やし、プロジェクト学習による探究活動を充実させる。生徒の「なぜ」にじっくり向き合い、生徒の探究心を育成する。

また、一連の基本的な探究活動を経験させることで、高校での探究

* 医学コースとは、安積高等学校に導入された医師・看護師をはじめとした医療従事者を志す高校生を支援する教育プログラムである。医学ゼミや県立医科大学等との連携事業を通して、医師としての人間性を醸成し、医学部進学に特化した学習指導、進路指導の充実を図る。

* オールイングリッシュによる英語の授業とは、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。」と中学校学習指導要領にあるように、場面に応じて英語表現を行う思考力・判断力・表現力を養う授業である。

活動（SSH活動）へつながる基礎を培う。グループ研究とすることで、互いを尊重しながら合意形成を図り、多様な他者と協働して解決に向かう力を育成する。

<プロジェクト学習の展開の一例>

- ・EdTechによる探究的な学びを支援するプログラムの導入
- ・福島イノベーション・コースト構想、F-REIと連携した課題探究
- ・研究手法の基礎の習得 など

<プロジェクト学習の視点の一例>

- ・県内の地域を理解する学びから、日本、世界まで視野を広げる空間軸や「過去、現在、未来」という時間軸を基にした視点
- ・地域社会の課題解決のためのSDGsの視点 など

○ 教科横断的で質の高い学び

各教科・科目で教科横断的な学び、探究的な学びの教材開発を進める。全ての教科で、探究的な学びを実施するとともに、総合的な学習の時間でのプロジェクト学習と各教科を往還する学びにより、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等を身につける。

<授業実践の一例>

- ・同一テーマによる教科連携授業での多角的な学び など

○ 授業時数の増加

探究的な学びにおいて、本物に触れ、本質に迫る洞察力を磨く時間を確保するために、総合的な学習の時間の授業時数も含めて各学年週2時間程度授業時間を増やすこととする。

<授業実践の一例>

- ・生徒の「なぜ」に寄り添った、探究心を満たす発展的かつ高度な内容の学び
- ・読解力や洞察力、思考力などを深める時間の設定 など

ウ 協働的な学び

○ 多彩な学び、きめ細かな指導

日常的に協働的な学びを促す環境のもと、少人数指導や、習熟度別授業などで生徒の学びをきめ細かく支援する。

<施設面での工夫>

- ・設えの異なる5つの少人数教室
- ・建具を開放することにより学年として利用できる交流ラウンジ

- ・様々な交流の場となり、アクティブ・ラーニング*スペースとして機能する階段教室
- ・図書館とつながる多目的スペース など

○ 学びをつなげ、学びを深める ICT 活用

一人一台端末の導入等を踏まえ、ICT を活用し、学びをつなげ、学びを深める。

<取組の一例>

- ・交流・連携のための ICT の活用
- ・探究的な学びを促す ICT 教材の導入
- ・EdTech 教材を利用した、自己啓発プログラム*の導入 など

○ 中高交流、中高連携の取組

中高生が相互に乗り入れる授業を実施したり、合同で行う学校行事を生徒が企画・運営する機会を設けたりすることにより、中高生が共に学び、それぞれがより深く理解し合うことを目指す。

<取組の一例>

- ・医学コース入門講座
- ・中学生も参加したSSH課題研究発表会
- ・高校生がチューターやファシリテーター役を担う場の設定
- ・中高共用の図書館や大講義室を活用した合同授業
- ・中高合同の文化祭 など

<施設面での工夫>

- ・中学生と高校生がともに利用できる図書館、大講義室の設置

<連携した教科指導の一例>

- ・中高で連続した担任教員の配置や中学校における高校の教員による教科指導
- ・中学校で探究したテーマの高校での継続研究 など

(8) 中高の接続

高校入学時においては、併設中学校からの進学者とそれ以外の中学校からの入学生の多様な個性を生かし、対話と協働を通して切磋琢磨し、双

* アクティブ・ラーニングとは、教師による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者が課題の発見・解決に向けて能動的に学ぶ指導・学習法の総称である。

* 自己啓発プログラムとは、気づきを言語化して残す、改善策を見つける、実行に移す、このサイクルをまわし、蓄積していくことで、自律性の育成を目指すプログラムである。

方の非認知能力が高まる相乗効果を期待し、混在するクラス編成とする。

※高校1年次は、単位制をいかした教育課程を編成する。

※高校2、3年次のクラス編成については、文理の垣根を超えた学びがより効果的なものとなるよう在り方を継続的に研究していく。

(9) 他の中学校等との連携

併設中学校は、県内で3つ目の県立中学校であり、浜通り、中通り、会津の3地域に各校ずつ設置されることとなる。県立中学校との連携や市町村立中学校等との連携を次のように整理した。

ア 県立中学校との連携

体験重視の学びやSTEAM教育などを取り入れた学びなどを通して開発した教材や教育実践の内容を2校と共有し、教科横断的な学びを広める役割を担うこととする。

<連携の一例>

- ・会津学鳳中学校：SSH活動、国際理解教育に関する連携
- ・ふたば未来学園中学校：未来創造学を中心とした課題解決学習に関する連携 など

イ 市町村立中学校等との取組

中学校で取り組む探究活動による課題研究の教育実践の成果を広め、地域の市町村立中学校を探究活動の実践でつなぐ中核校としての役割を担う。併せて、教育実践で得た知見を、人事交流などを通して、市町村立中学校にも共有していく。

<連携の一例>

- ・課題研究発表会への地域中学生の招待 など

(10) 生徒募集

併設中学校における生徒募集については、以下のとおりである。

募集区分	通学区域及び出願資格	募集定員
一般選抜	県下一円の児童を対象	60名（1学年）

3 開校に向けた準備計画

(1) 校舎施設整備について

既存施設解体等 令和5年3月～

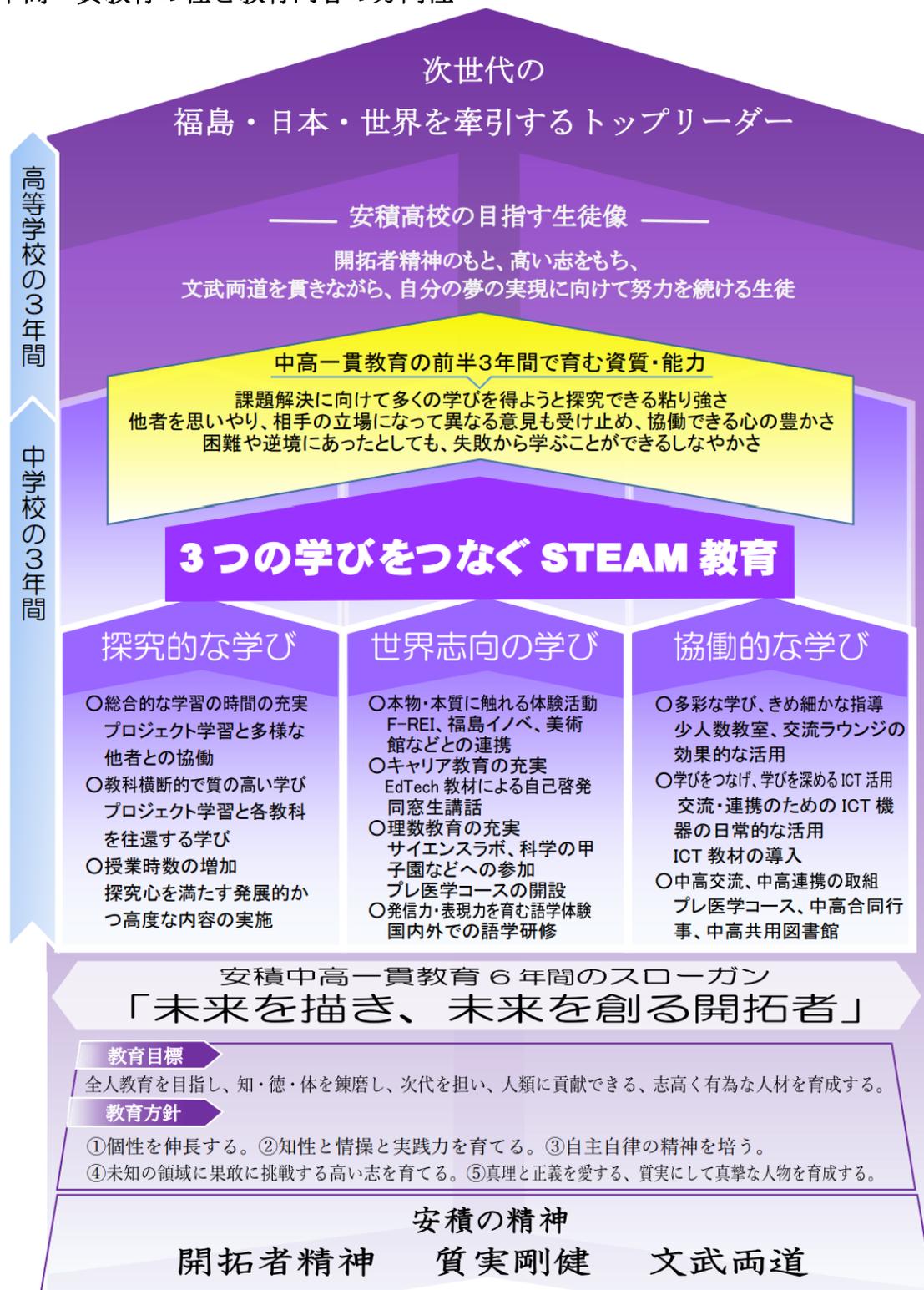
新築工事 令和5年10月～

完成予定 令和7年2月

(2) 教育内容等の検討について

本計画に基づき、令和5年度半ばを目途に教育内容等の具体化を進めていく。また、広報活動として、令和5年度後半を目途に説明会等を開催する。

中高一貫教育の柱と教育内容の方向性



<参考> 整備基本計画の概要

令和3年5月に策定した整備基本計画の概要は、以下のとおりである。

(1) 併設中学校の概要

- ① 学校名
福島県立安積中学校（仮称）
- ② 開校（予定）年度
令和7年度
- ③ 設置地
郡山市開成5丁目25番63号
- ④ 生徒募集定員
1学年60名
- ⑤ 通学区域
県下一円

(2) 新設する校舎の概要

- ① 建設場所
安積高等学校の現図書館、家庭総合実習室及び駐輪場のある敷地東側
- ② 施設規模
延べ床面積約4,450㎡
鉄筋コンクリート造、一部木造・鉄骨造（3階建て）
- ③ 整備方針
国指定重要文化財である安積歴史博物館の壮大な外観を空間の骨格に据えた新校舎とする。

(ア) 主体的、対話的で深い学びの実現

主体的、対話的な学びを支え、協働的な活動ができる施設として交流ラウンジ、多目的スペース及び少人数教室を設ける。

普通教室は、授業に集中して臨むことができる独立性を担保しながら、場面や使い方に応じてコモンスペース（交流ラウンジ）と一体的にも利用できる設えとする。

生徒が活発に議論するアクティブ・ラーニングスペースとして機能する、屋根面を活かした階段状の教室を設ける。

(イ) 中学生と高校生が共に学ぶ環境の実現

生徒が探究活動をプレゼンテーションする場や、キャリア教育の一環として外部講師の講演を聴講する場として大講義室を設ける。

中学生と高校生が共に学び、その資質・能力を伸長し、豊かな教養を育むため、中高共用の図書館を設ける。

(ウ) 生徒の興味・関心を引き出す環境の実現

特別教室の準備室は、壁面に見せる収納を設け、生徒たちの学びのきっかけとなり、様々な分野に興味を持つような仕掛けとする。

中学校校舎完成予想図



中学校校舎内完成予想図（交流ラウンジ、階段教室）

